

上戸 翔太さん（岡山県倉敷市出身）
2018 年度 2 次隊 青年海外協力隊
派遣国：マレーシア 職種：野球
2020 年 3 月 22 日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

野球振興へ指導に工夫

「おはようコーチ！調子はどう。ご飯食べた？」。
ご飯の話から 1 日が始まる。マレーシア人は食べるこ
とが大好きだ。私は青年海外協力隊としてマレーシアの大学
に派遣されている。日本人が移住したい国として知られる
東南アジアの多民族国家である。

人口の 7 割がマレー系、2 割が中国系、1 割がインド系
で、料理の種類も豊富で生活は楽しい。習慣や文化、言語
も多様なマレーシア人はマイペース。のんびり過ごす毎日
の中で、ご飯の話は重要な話題だ。



キャプション：
岡山県に遠征し練習試合をしたマレーシアの
学生チーム(手前)

私は大学硬式野球部の指導、マレーシア代表チームの指導、地域の小学生向けの野球教室や大会の企
画運営をしている。しかし野球はこの国ではマイナースポーツで、サッカーに比べ人気はかなり劣る。
指導者も少なく専用グラウンドはほとんどない。

そんな環境で、学生や小学生に興味を持ってもらうため工夫を凝らしている。
昨年は大学野球部の日本遠征を行い岡山県の高校や大学と合同練習をした。スポンサー企業を学生と探
し、企業と大学から支援を受けて実現した。学生は日本の野球から多くを学び、野球に真摯しんしんに向き合
う姿、技術やチームプレーに感動していた。技術だけでなく、道徳を教える良いきっかけとなり、チームの
成長を感じることができた。

昨年末にはマレーシアの友人を通じてメジャーリーガーがこの国を訪れた。友人と協力して野球教室
を開くことができた。出会いに恵まれていると感じる。任期は残りわずかだが、自分らしく出会いを大切
に活動していく。日本では年々、野球人口が減っているようだが、帰国後は培った経験を日本の野球人気
復活のため還元したい。